

キラットさん

BE AMBITIOUS

秋田桂城短期大学 1年

石川 牧子 さん



今回のキラットさんは、秋田桂城短期大学地域社会学科の石川さんです。石川さんは、湯沢北高校出身で、高校から始めた剣道の腕前は二段となかなかのものです。短大には剣道部がないので、「今は特に何もやっていませんが、趣味の写真の上達のため写真部に入るのもいいですね。普段の生活はというと、「初めての一人暮らしで今でも身のまわりのことをするだけで精一杯で、なかなか外に目を向けることができないんです」と弱気ですが、とてもそのようににはみえません。休日は、好きな映画観賞やアルバイトと余裕さえ感じられます。県南出身の石川さんにとって県北地方は遠いところという印象で、なかなか来る機会があ

りませんでした。しかし、短大入学を機に大館市に住むことになり、この縁を大切にしたいそうです。石川さんの考えるより先に行動するという積極的な性格は、中学時代、国際交流でドイツにホームステイしたときの貴重な体験が生かされていると言います。「ドイツの同年代の学生たちは、日本人のように物事をあいまいに言うことがありません。常に自分の考えをしっかりと持って行動している姿に感銘を受け、自分のこれまでの行動を見つめ直す機会となりました」と振り返ってくれました。

石川さんは、学校では、地域社会について、おもに、今話題となっている地域の問題や少子化問題など、私たちに身近なことを学んでいます。卒業後は福祉分野の勉強のため、専門学校に進み、さらに知識を深め、社会福祉主事の資格を取得することが当面の目標とのこと。そのため、今の短大生活は、大事な充電期間でもあるのです。これからの高齢化社会、さらに重要度を増す福祉の仕事で力を発揮する石川さん。どんなことで成し遂げることでしょ

私の本棚

中央図書館新着図書

『逆説の日本史5
中世動乱編』



井沢 元彦 著
小学館

「歴史教育には定説だけでなく異説・新説も含めて学ぶことが不可欠。」と語る筆者が、日本史の謎に迫るシリーズの第五弾。

義経と頼朝。源氏政権誕生に隠された「源平戦争」の真実とは？ 日本人を錯覚させた平家物語の虚妄をえぐり、歴史教科書が書けない日本の真の姿を伝える。

一般書

◆神名火(佐藤洋二郎) ◆風よ、撃て(三宅彰) ◆邪眼鳥(筒井康隆) ◆三国志四の巻(北方謙三) ◆自由の地いずこ(北影一) ◆涙はふく、凍るまで(大沢在昌) ◆即天武后上下(津本陽) ◆つれなかりせばなかなかに(瀬戸内寂聴) ◆幾世の橋(澤田ふじ子) ◆史記の風景(宮城谷昌光) ◆ピッケルと口紅(北村節子) ◆ご隠居のすすめ(木村尚三郎) ◆ピアノのおよめいり(竹内みや子) ◆青函連絡船洞爺丸転覆の謎(田中正吾) ◆人生は論語に窮まる(谷沢栄一ほか) ◆古墳が消えるとき(榎原考古学研究所) ◆生命の記憶(布施英利) ◆チンギス・ハーンの一族1(陳舜臣) ◆かくも冷たき心(ジェイムズ・エリオット) ◆欲望のゲーム上下(ベニー・ジョーダン) ◆恋をする牀(ジャネット・ウインターソン) ほか

児童書

◆森のネズミの大サーカス(岡野薫子) ◆ちきゅうのななみ(長崎夏海) ◆いじめられっ子と探偵団(鈴木喜代春) ◆ふくらふしぎなおくりもの(佐藤さとる) ◆せんせいマツアオこわい話(小暮正夫) ◆ブータンの朝日に夢をのせて(小暮正夫) ◆あいたかったよ、カネチン(林洋子) ◆アリーナ空をとぶ(エムナマエ) ◆忍たま乱太郎きけんなえんそく?の段(尼子騷兵衛) ほか

◆6月のテーマ関連図書コーナー・・・『気象』
◆親子読みかせ会・・・6月6日 14時30分
中央図書館の休館日・・・6月15日、26日